

学位論文審査の要旨

学位申請者	石井 洋美 比較社会文化学専攻2015年度生		論文題目	葉靈鳳作品の比較文学的研究 —フロイト精神分析と西洋文学作品の影響を中心に—
審査委員	主 査:	宮尾 正樹 教授	インターネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 可
	副 査:	和田 英信 教授		「否」の場合の理由
	副 査:	伊藤 さとみ 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	田中 琢三 准教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	橋本 陽介 助教		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (人文科学)			<input type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Chinese Literature)			<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本論文は、近代中国の小説家にして批評家、編集者であった葉靈鳳(1905-1975)の西洋近代文学・思想受容のあり方について、短編小説の分析を通じて明らかにしようとするものである。西洋近代文学および近代思潮が、東アジアの他地域と同様に、中国の近代文学形成にきわめて大きな影響を与えたことは論じるまでもないが、テキストの実際に即した議論ははなはだ不十分である。論文は序章・終章と本文四章から成り、前半では創作初期の作品を、後半ではモダニズム作家として成熟した時期の作品を主として論じている。第一章では、1920年代から30年代の中国においても一大ブームを巻き起こし、葉も初期に大きな影響を受けたフロイトの精神分析を葉がどのように受け入れ、創作に応用したか、短編小説の分析を通じて具体的に検討する。第二章では、夢を描いた作品の一つである「鳩緑媚」(1928)を取り上げ、アンドレ・ジイド『贗金づくり』(1926)から示唆されたと思われるミザナビームの手法の使用について、テキストに即して分析し、複雑に入り組んだ作品世界を明らかにする。第三章では、葉のモダニズム作品に描かれた男女のありようを通して、葉の持つ女性観が早期作品から一貫して変わっていないこと、同時代の中国新感覚派の中心作家である劉呐鷗や穆時英の女性観と異なることを指摘した上で、西洋の小説、特に小デュマ『椿姫』から葉が大きな影響を受けたのが理由の一つだと、葉の文章や小説テキストの分析を通じて論ずる。第四章では、モダニズム作品からキリスト教世界では大方悪女として描かれてきたリスの伝説を下敷きにした小説「麗麗ス」を取り上げ、アナトール・フランスの「リリトの娘」のテキスト及び内容と比較し、この作品が異端的小説「リリトの娘」の影響を受け、フランスの教会批判を受け継ぐと同時に1930年代の上海に生きる女性を描いたものであることを指摘し、「麗麗ス」には葉が憧憬する恋愛の姿が描かれていると主張する。

審査委員会は12月16日、1月30日(書面)、2月22日に開かれた。先行研究が少なく、あったとしてもテキストに基づいた考察を欠くものが多い中で、フロイトや小デュマ『椿姫』、フランス『リリトの娘』と葉の小説テキストとの関係を、中国におけるそれらの受容のあり方をまとめた上で、テキストに即して詳細に論じた点が高く評価されたが、他の同時代作家との比較が物足りない、終章の結論の中に、本文で十分に検討されていないものが含まれている、章間の関連が見えにくい、見解のオリジナリティが明示的でない箇所がある、等の指摘がなされ、申請者はそれらに対応して必要十分な修正を加えた。2月22日の公開発表において、論文の内容をわかりやすく的確に説明し、聴衆の質問にも適切に応答した。引き続き行われた最終試験において、学位にふさわしい学力を有することが確かめられた。以上に基づいて、本論文が博士(人文科学)、Ph. D. in Chinese Literatureにふさわしいものと委員会として判断する。